

病院などが立ち並ぶが、祖父の話によると、	現在この地域には、住宅のほか商業施設や	す場所でもある。	また、そこは現在私が祖父や家族と共に暮ら	な被害を出した。また、現私私が祖父や家族と共	を出した。当時私の祖父の自宅は、その甚大	者八名、全壊家屋四戸、流出家屋六戸の被害	にも流れ込み、同地区は死者三名、行方不明	その後、濁流は下流にある葦崎市一ツ谷地区	杜市を流れる釜無川上流の堤防が決壊した。	より三日間降り続いた雨の影響で、山梨県北	昭和三四年八月一日午前八時頃、台風	だ。	も思えるが、じつは私と深く関係していたの	る。平成生まれの私には一見無関係のように	そして私の両親が生まれる遙か前の台風であ	勢湾台風一をぞ存知だろうか。中学生の私、	あなた、昭和三四年八月に発生した「伊	北杜市立甲陵中学校二年上野	北杜市立甲陵中学校二年上野	先人たちから受け継いだもの
----------------------	---------------------	----------	----------------------	------------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	-------------------	----	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	--------------------	---------------	---------------	---------------

当時は住宅と水田だけが広がる静かな地域だ
 ったそうだ。そこへ上流で氾濫した釜無川の
 濁流が土砂と流木を交えて流れ込み、辺りの
 景色は一変した。堤防に取り残される人、家
 と共に押し流される人、さらには土砂災害の
 さなか当時盛んだった養蚕の七輪が原因の火
 災も発生し、本当に悲惨な状態だったそうだ
 当時小学三年生だった祖父は、その様子を少
 し高台になっていて難を逃れた自宅から見
 いた。一人の少年の力ではどうすることもで
 きず、ただただ見ていた。約六〇年経った今
 でも、祖父は当日の出来事をまるで昨日のこ
 とのように鮮明に覚えていそうだ。「想像
 を絶する世界」は、少年だった祖父の心から
 消えない記憶となった。そんな衝撃的な祖父
 の話にも、私は言葉を失った。何故なら、一三
 歳の私にとって、災害はテレビや新聞の中だ
 けで見聞きする遠い世界の話だったからだ。
 例え、二年前に茨城県で起きた鬼怒川の堤
 防決壊や今年起きた九州北部地域の水害など

メディアからの情報に心を痛めたりすること
は今まで何度もあったが、多忙な日常に追わ
れ、心のどこかで他人事のように感じていた
そんな自分を非情な人間だと思っ、てしま
うが裏を返せば、それは私が災害と無縁な生活
を一三年送ることができた証なのかもしれない
だから、現在私が暮らすこの地区を襲った土
砂災害の話、を祖父から聞き、私は急に恐ろし
くな、った。災害が誰にでも起こりうる身近な
出来事だと初めて認識したのだ。
甚大な被害を出した伊勢湾台風による土砂
災害の教訓から、その後、山梨県内では本格
的な砂防事業が行われた。昭和五七年、山梨
県は再び巨大な台風に襲われたが、この砂防
事業のおかげで被害を最小限に食い止めるこ
とができたそう、だ。まさに、人と自然の調和
を、目指す砂防事業が実を結んだ結果、だと言
え。災害の経験から学び、共に乗り越え、知
恵を絞り、安心して暮らせる街を砂防事業に
より築いてきた先人たちは偉大だ。だから、

先人たちに感謝しなければならぬと思う。
 現在、ゲリラ豪雨や台風、地球温暖化が原
 因の豪雨などで山が崩れたり、河川が氾濫し
 たり、毎年日本のどこかで土砂災害が発生し
 ている。「自分の住んでいる地域に限って、
 災害は起こらないだろう」という何の根拠も
 ない安易な考えは、一刻も早く捨てなければ
 ならない時代がきたのだ。今や日本中どこを
 探しても安住の地なんてない、ということをし
 私たちは肝に銘じなければならぬ。土砂災
 害はいつ自分の身に降りかかるかわからない
 ので、行政の発行するハザードマップを家族
 で確認しておくなど、日頃の準備が必要だと
 考える。
 最後に、今回私が暮らす地域で過去に起き
 た土砂災害の話を通じて、祖父から聞き、普
 段私がいかに幸せなのかということを実感し
 た。地域の歴史や現在の砂防事業を知ること
 により、砂防事業への取り組み、
 もしもの事態に備えることの大切さにも気
 付けた。行政による砂防事業への取り組み、

そして私たち一人一人の
高い意識こそが未来
の日本を築く礎になるのだ。
だから、私たちが
若い世代は、先人たちから
受け継いだ経験と
知恵を未来に伝えていかな
ければならないと
思う。